

「2 家にいるときに大地震が起こったら」

- 学習のねらい： 1. 自宅で起こり得る危険と危険回避を理解できる。
 2. 自分や家族を助けるための行動を理解できる。
 3. 避難場所や避難時に注意すべきことを理解できる。

(指導上のポイント)

- ◆地震発生時の初期対応として、「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を見つけ出して、すばやく身を寄せ、適切な方法で自分の命を守ることを指導する。
- ◆被害を最小限に食い止めるため、家族防災会議を開き、家族で話し合っておくことの大切さを指導する。

《参考》

○家で起こり得る危険の回避方法と対策

【窓ガラスの破損】窓から離れ、室内履きを用意する。

→カーテンを閉めて寝る。強化ガラスに変更する。飛散防止フィルムを貼る。枕元にスリッパ、寒中電灯を用意する。

【家具の転倒・落下】転倒家具の近くから離れ、机の下に隠れるか、机がなければ本などで頭を守る。

→家具を固定する。寝る位置を工夫する。タンスなどの上に重い荷物を置かない。本棚の上の方に辞書や図鑑などを置かない。突っ張り棒と転倒防止シートを併用する。

【ドアの歪み】閉じ込められないようドアを開ける。

→耐震補強を行う。

【台所での出火】揺れがおさまってから火を消す。

→消火器を使う。

【家の屋根の落下、自宅のブロック塀・石垣の崩壊・転倒】慌てて外に飛び出さない。

→耐震補強を行う。

2 家にいるときに大地震が起こったら

(1) 家の中で危険なこと

地震の揺れで家屋が倒壊しない場合でも、家の中の住人が危険になる場合があります。あなたの家ではどのような危険があるか、写真を参考に考えて書いてください。また、危険の避け方も書きましょう。

場所	考えられる危険	危険の避け方
例) 自分の部屋	窓ガラスが割れ、破片が飛び散る。固定されていない本棚が倒れてくる。	窓ガラスに飛散防止フィルムを貼る。本棚と壁をベルトや金具で固定する。
両親の寝室	タンスが転倒する。	タンスから離れ、枕で頭を守る。
玄関	津波で浸水する。	早めに高台へ避難する。
居間	テレビが転倒する。	テレビから離れる。
客間	額縁が落下する。	額縁から離れる。

話し合ってみよう!
 平成30年度防災に関する県民意識調査(三重県)では、約46%の県民が家具類を固定していないとの結果がでました。危険が分かっているのに、なぜ対策が進まないのか話し合ってみましょう。

(議論のポイント)

- ・正常化の偏見(頁9参照)、耐震化の費用、多忙な生活スタイル など

(次年度以降の展開例)

- ・自宅での安全対策について、生徒にまとめさせる。
 - ・指定されている避難所まで歩く。
 - ・消火訓練の際に復習する。
- などが考えられる。

関連学習：ワークシート①

「危険を家から追い出す」

ワークシート②

「備蓄品の種類と量、場所を確認する」

(2) 自分と家族を守るために

①大地震が発生すると、家の中では、次のような状況になることが考えられます。家族を守るために、あなたはどのような行動を取るべきでしょうか。

家の中の状況	取るべき行動
壁が変形し、祖母の部屋のドアが開かなくなった。祖母が中に閉じ込められている。	例) 祖母に声をかけ、安否を確認する。家族と協力してドアを壊し、祖母を救出する。避難の準備をする。
ストーブが倒れ、上に置いてあったやかんの湯がかかり、父が足に火傷を負っている。	父に応急手当を行い励ます。肩を組んで避難する。
家中に割れたガラスや食器の破片が散らばっている。あちこちで家具が倒れ、歩行を妨げている。	家族の安否を確認し、スリッパや靴を履くよう伝える。協力して家具を移動させ、避難経路を確保する。
ほかに、どんな状況が考えられますか。書いてみましょう。	
真夜中の寝ている時に大地震が起こり、台所から出火した。	家族に大声で避難するように呼びかけ、安全な場所へ誘導し、消火器で消火活動を行う。

②あなたの家からは、どこに避難すればよいでしょうか。また、避難するときに気をつけることは何でしょうか。

- ・〇〇小学校。
- ・家族でしがをしている人がいれば配慮しつつ、自分が重い荷物を持つ。

もし火災が発生したら…

●火災の際には、一酸化炭素などの有毒ガスが発生するのを防ぐため、口、鼻をハンカチなどで覆う。

- お年寄りを助ける
- いっしょに避難する
- 避難経路を確認する

対策

消火器の使い方

- ①安全栓を引く
- ②ホースをはずし、炎の中心を向ける
- ③レバーを握り、炎を消す

《重要》

火災は津波とともに代表的な二次災害であることから、必ず注意喚起を行う。

ハンカチのほかにタオルや服を使ってもよいことを指導する。
また、消火は初期の火災に限定するよう指導する。

(指導上のポイント)

- ◆地震がおさまったら家族同士で無事を確認することを指導する。
- ◆取るべき行動について、地震発生の時間帯や家族の居場所、家族構成などによりさまざまなケースが考えられるが、災害から自分だけでなく家族を守る役割を担うことを指導する。

(指導上のポイント)

- ◆家族の中に高齢者や小さな子どもがいる場合に気を配るように指導する。
- ◆各地域の避難場所を市町防災担当部署などで確認するよう指導する。また、地域によっては、地震と風水害で避難場所が異なっている場合があることも指導する。

※参照：県防災対策部 HP

「避難所・防災マップ」

http://www.bosaimie.jp/resource/1495426761000/X_MIE_ne000

- ◆避難に都合の良い天候・時間だけでなく、例えば雨の日の夜中に避難する場合はどうするかを考えさせる。

(回答例)

雨の日であれば、レインコートを着る必要がある。

夜間・停電時であれば、懐中電灯を持って逃げる必要がある。

《重要》避難勧告が発令された場合は、直ちに避難するよう指導する！

危険度

強

「高齢者等避難」

●住民に対して避難準備を呼びかけるとともに、高齢者や障がい者など、避難に時間がかかる方が避難を開始する段階

「避難指示」

●被害が予想される地域の住民が、指定緊急避難場所等への立退き避難を基本とする避難行動をとる段階
●災害が発生するおそれが極めて高い状況等で、指定緊急避難場所への立退き避難はかえって命に危険を及ぼしかねないと自ら判断する場合に、近隣の安全な場所への避難や建物内のより安全な部屋への移動等の緊急の避難をする段階

(確認)

地震が起こったときの危険とその回避方法を理解し、事前の防災対策や準備を行うことで、自分が家族を救う行動をとることができることを理解できたか。